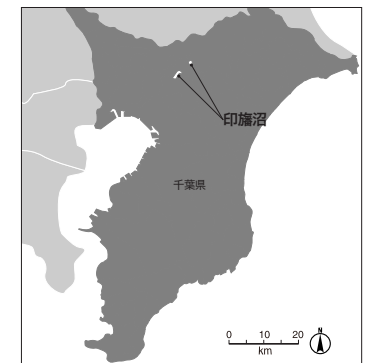


千葉県・印旛沼流域

印旛沼流域における水循環健全化の取組からポストコロナ社会へ

印旛沼流域水循環健全化会議委員
近藤昭彦



印旛沼はどこにあるのか知っていますか。印旛沼は千葉県北部の下総台地のほぼ中央部にあります。もともとWの形（龍の姿にも似ていた）をした大きな沼でしたが、戦後の印旛沼開発事業により埋め立て、新田開発が進み、今では北沼と西沼に分かれてしまいました。沼の水は工業用水、農業用水、水道用水として高度に利用されるとともに、大雨時には水位を調整し、地域の安全・安心にも大きく貢献しています。しかし、黙々と人間社会を支えてきた沼も息切れをしたのか、全国の湖沼の中でも水質が悪い湖沼の常連となっていました。

そこで、千葉県は2001年に印旛沼とその流域のステークホルダー（住民、市民団体、専門家、関係機関、行政等）で構成される「印旛沼流域水循環健全化会議」を設立し、水質改善の取組を始めました。住民と行政が意見を交換する「わいわい会議」、まずはやってみようの「みためし行動」、印旛沼方式と称する健全化の行動計画では、印旛沼に関わる多くの主体が目的を共有して一緒に汗を流し、達成感を得ることができたといえます。それでも沼の水質はなかなか良くなりません。

そこで、2014年には印旛沼を思う個人や団体

をゆるく繋ぐことを目的とした印旛沼流域圏交流会が結成され、印旛沼の水の恩恵を受ける流域圏における人と人のつながりの醸成を図ってきました。交流会をきっかけとして、県主催の「印旛沼流域環境・体験フェア」（次ページ写真）の企画に住民が参加する仕組みもでき、フェアを通して印旛沼流域圏の人々のつながりも生まれました。印旛沼に対する思いを共有できる個人や団体が語り合うことは水循環健全化の大きな力となったと思います。

2019年秋、千葉県は風水害の三重苦を経験しました。9月の台風15号（令和元年房総半島台風と命名されました）では大風による被害が甚大でした。10月12日の台風19号では印旛沼は事前放流を行い、水害に備えました。10月25日の豪雨では流域の各所で氾濫し、フェアも中止になってしまいました。浸水域の一部は下流を守るため刈り取りが終わった水田を遊水池として活用した結果でした。流域の住民は行政や上流における誰かの営みによって守られているといえます。このような関係性を意識することが地域力につながるのではないのでしょうか。

そんな時にCOVID-19による災禍に見舞われまし



印旛沼（北沼）全景 東京と成田国際空港を結ぶ北総鉄道が低地を横切っている。



行政、企業、市民グループなどが交流するブース 2018年は流域内の食材を使った“いんばぬま食堂”が目玉だった。



フリソングジャズオーケストラのメンバーによる演奏 印旛沼流域東部にある富里市で活動しているオーケストラで、名前のフリソングは「富里村」の音読み。地域創りに音楽は不可欠だ。

に行き来することができるとは、地域なので。新型コロナ禍では都市住民の行動は大きく制限されましたが、農村の暮らしにはゆとりがありました。都市と農村という二つの世界が隣接し、交流できる印旛沼流域はポストコロナ社会のひとつのモデルになると考えています。そのためには印旛沼流域が地域で暮らす人々の「ふるさと」になることが大切なことです。今まで東京に向けていた視線が、今度は地域を向くことがポストコロナの時代における地域力を生み出すと考えています。

参考

いんばぬま情報広場 <http://inba-numa.com/>

た。健全化会議の活動もしばらく止まってしまいましたが、活動のあり方の再検討も始まりました。そこで議論されていることのひとつは流域治水の考え方を取り入れた流域一貫の営みです。流域治水とは河道だけでなく流域全体で治水を試みる考え方ですが、その中には水害に強い土地利用計画も含まれ、広く捉えると地域創りそのものといえます。ポストコロナ社会を創造するためのきっかけとならないかと考えています。

流域治水の実践は従来の縦割りの取組から横つながりに変えなくてはならないため、言うは易くで困難な取組です。しかし、頻発する災害や新型コロナウイルス禍の経験は、地域の課題を解決するためには縦割りの個別対応ではなく、横つながりの協働によって地域全体を良くする営みの中で、個々の課題も解決できるのではないかという思いを運んできたように思います。

印旛沼流域の西側は東京大都市圏につながる都市域となっていますが、東部には良好な農村的景観が広がっています。都心へも1時間足らずで到達することができ、住民は都市的世界と農村の世界を自由